

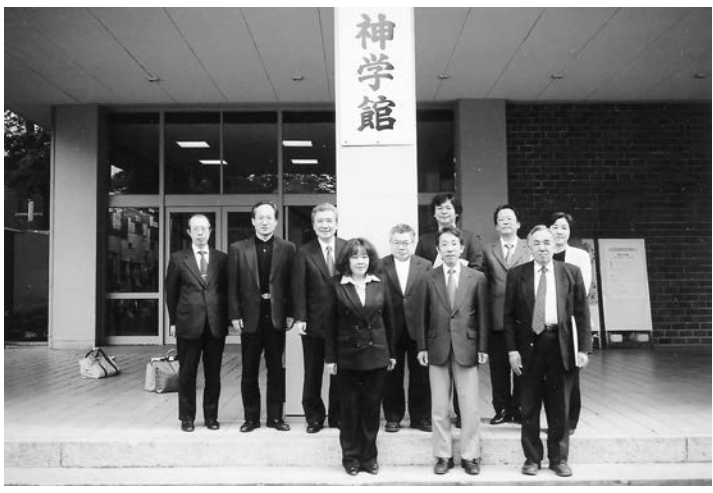
戒規施行細則変更の協議を開始

第六回教師委員会

第六回教師委員会が一〇月二〇日関西学院教会を会場にして開催された。今回は、二年に一度の神



関西学院教会を会場にして委員会



同志社大学神学部を問安

プ役であるとの理解の中で行っており、教師養成への感謝を述べ、神学部の現状と教団への要望をお聞きし、祈りを合わせて行っている。今回の問安では、それぞれに総合大学での神学部の位置付けに対する課題を聞くことができた。今後

も神学教育に関わる両大学神学部への祈りと話し合いの窓口としての役割を大切にしていきたいと考えている。なお、関東地区にある、東京聖書学校、日本聖書神学校、農村伝道神学校、東京神学大学への問安は一月に入って委員が手分けして訪問することになっている。

さて、委員会では、軽達昇委員長から七月に開催された常議員会で教師委員会報告が承認されたことと戒規施行に関して抗議、要請文が届いていることの報告を受けた。委員会としては、それらに対する返答を協議した。

また、戒規施行細則の不備についての反省を踏まえて戒規施行細則変更の協議を開始している。更に、今後、戒規の提訴が起こった場合の手続きに関しては、内規を設けて対応することとし、内規作成の作業に入った。

本年度の新任教師オリエンテーションに関しては、二〇〇六年六月二六～二八日に天城山荘を会場にして開催することを決定した。(宮本義弘報)

河上民雄元衆議院議員に聞く

第三回社会委員会

去る一〇月三十一日(月)十一月一日(火)、教団会議室にて第34総会期第三回社会委員会を開催し、難波幸矢委員の奨励による開会礼拝をもって始められた。委員の交代があり、日本キリスト教社会事業同盟から長沢道子新委員が就任した。

主な協議事項は下記のとくである。

1、報告事項に関連することとして、(1)ハリケーン募金実施についての事後承認と、献金先としてアメリカ改革派教会(RCA)を加えることとした。(2)「靖国・天皇制問題小委員会」から「小泉首相靖国参拝反対声明」を一〇月一六日に出したとの報告を受けた。

(3)「働く人」編集委員会との関係を正しく理解し、整理すべきことを確認した。(4)日本キリスト教社会事業同盟の〇四年四月～〇五年一〇月末までの活動と、交流が始まっている韓国PCKの社会事業の実情が紹介された。(5)すでに救済募金は終了しているが、村田元委員から新潟県中越地震のその後の救援と支援の状況について伺った。

2、憲法改正問題と教育基本法改正問題をめぐって「題して憲法学者で元衆議院議員の河上民雄氏による講演を聞き、質疑応答の時間をもった。氏は「再び愚かな祖先とならないために」との熱い思いを秘めつつ、現下の問題についての分析と、歴史的、法的側面から貴重な意見を述べた。

3、上地武委員より「沖縄におしつけられた基地問題について」と題する発題がなされ、ことにビデオを用いて辺野古の現状と問題が紹介された。

4、教団の「社会活動基

イエスはガリラヤで「教え、御国の福音を宣べ伝え、また、民衆のありとあらゆる病氣や患いをいやされた」とあります。社会における「いやし」のわざは、主の働きの欠かせないものであります。ホスピティウム(暖かいもてなし)を語源としてホスピス、ホスピタルは生まれました。多くの社会事業がキリスト者たちによって始められたのもむべなるかなであります。

社会事業奨励日メッセージ

また、ボランティアを求めている場合には応じてまいりましょう。日本の多くの教会では自分の教会を支えることがまず第一になりがちです。それはそれで尊いことです。しかし、そのことがいつの間にか教会のための教団にならないようにしたいものです。二〇〇五年二月四日 日本基督教団社会委員会



河上民雄氏による講演

人材・施設データベース化へ

第2回障害者差別問題小委員会

第34総会期第二回障害者差別問題小委員会が、教団会議室にて一〇月三十一日～十一月一日に行われた。前回記録承認、第二回宣言書が、それぞれ「新しい事態が待ち受けているところに帰れ」という意味であり、「信仰を持つて生きる者は、たとえどのような状況にあっても、無限の可能性を信じている」というメッセージが語られた。

次回委員会は、二〇〇六年四月一七日～一八日、教団会議室で開催することとした。内容は、①講演／大津恵子氏(女性)の家HELP②「かがやけともに」(レター版第二号)③医療福祉制度の変化④データベースのサンプル⑤障害者差別問題小委員会の課題(名称も含めて)それぞれ担当者が発題することとした。(堀真知子報)



諸課題について学びを深める

本方針」に関して引き続き協議している。今回は一九九六年の第29総会期第五回常議員会記録を読んで決議の内容が不透明なことを改めて確認し、基本方針の必要性を再認識した。

5、「全国社会委員長会議」の開催に関して、過去の反省を含めてどのようにすべきかを協議し継続した。

6、「憲法改悪反対」署名を呼びかけることとした。(張田眞報)

刑罰第三九条(心神喪失者、心神耗弱者)について堀真知子委員より発題があり、質疑応答がなされ、学びと討論を深めた。この問題については、継続的に取り組むこととした。

お互いに情報交換を深め、委員会と教区、委員会と活動者のネットワークを築くために、ニュースレター「かがやけともに」を以下の方で発行することとしたので、お読みいただきたい。

震災から一年、支援の輪の広がりを

「新潟県中越地震」被災教会会堂等再建支援委員会

二月四日(金)教団会議室で第六回「新潟県中越地震被災教会会堂等再建支援委員会」が開かれた。関係する主司として、中越地震支援ニュースNo.3を全国へ発送した。

より村田元原市教会牧師が出席することになった。事務局報告
◎「被災教会・被災地を覚える主司」に向け、中越地震支援ニュースNo.3を全国へ発送した。
◎被災信徒宅へのお見舞金(八、二〇、〇〇〇円)を送付した。夫々の方からお礼状が届いている。
◎栃尾教会、長岡教会の補修費用(二、九八六、四九〇円)を送付した。
◎会計報告(一月四日現在、募金額四四、三二、一五三円)。
◎一月一九日の三役打合せに、一月二三日、十日町教会で行なわれる記念礼拝に小林眞副議長の出席を要請。副議長が出席、挨拶をされた。
◎一月二三日記念礼拝には一三六名の出席があった。教団の関わりを感謝している。
◎栃尾・長岡教会は雪前に補修完了予定であるが、他の三教会は雪解け後に動き出す事となる。
◎時が経ち、人的、精神的な二次被害が現われてきている。また、宣教拠点の再興、再建として次代の教会を見つめ始めている。
◎東京教区集会報告
一月三〇日午後二時より霊南坂教会で東京教区主催「中越地震被災教会を覚えて：関東教区からの報告と私たちの支援」の集いが



10月23日、十日町教会にて記念礼拝

開かれた。小出教会安藤昭良牧師のお話とDVDなど映像による説明で被害の状況を実感することができた。各教会へ持ち帰り、支援の輪が広がることを願っている。このような集会を他の教区でも開いてほしいと思う。
◎次回委員会
◎関東教区で行なっている被災五教会間安、連絡会に当委員会委員も出席してほしいとの要請に応え、次回委員会(二〇〇六年一月三〇日)を長岡教会で開くこととした。
(朝岡瑞子報)

高雄めぐみ園(台湾)に信徒宣教師

宣教師派遣式

一〇月二〇日、高久華子氏の宣教師派遣式が大宮博世界宣教師協会の委員長

属一葉幼稚園で執り行われた。平塚教会が会堂建築中のためである。高久氏は台湾、高雄日本宣教師として派遣された。説教の中で西田牧師は、山崎ミネ子宣教師を派遣した。

て十数年後に再び高久宣教師を平塚教会から派遣することのできる幸いを述べた。そして、使徒言行録一八章一節から二節に基づいて、アジアでの日本の立場を身にかけて生活していく中で、十分に恐れずに福音を語り続けるよう説いた。

派遣式後にもたれた茶話会では、平塚教会員と高久宣教師の同労者であった二葉幼稚園の教諭が多数参加し、祝辞やエピソードを語った。また、山崎ミネ子氏、高久氏の前任者である柏森幸子前宣教師もアドバイスとともに祝辞を述べた。

高雄めぐみ園は二年前に園庭のある園舎が与えられ園児も増加した。現在二歳から六歳までの主に日本人と台湾人の園児四三名を保育している。高久氏はすでに高雄めぐみ園に赴任しており、一時



栃尾教会、会堂補修

帰国中の派遣式となった。高久氏はスピーチの中で、今年の三月のイースターに平塚教会で洗礼を受けたばかりであるが、二葉幼稚園を卒園し、教諭として奉職、そして今回宣教師として派遣されることになったのは、神が備えてくださった道であると感じている、と述べた。また、台湾人の園児との対話には苦労しているが、歌を歌って対話を試みていること、異文化の中にあって、与えられた状況を何でも受け入れて、高雄での務めを果たしていきたい、との決意を述べた。高久宣教師の新しい歩みが祝されるように、一同祈りを合わせて会を閉じた。

2004年度 全国教会学校クリスマス献金贈呈 教育委員会

教育委員会では、毎年クリスマスに諸教会、幼稚園、キリスト教学校等にクリスマス献金を募っている。これら全国の子どもたちからさげられた献金は、一部の事務費を差し引き、毎年、予め定められた目的でさげられているが、去る九月二三日、教団総幹事室において、二〇〇四年度のクリスマス献金を二団体の代表にお越しいただき贈呈した。

なほ、献金の送り先はその他、継続的に支援しているアイヌ奨学金委員会があるが、クリスマスまでには贈呈しようと計画している。

事務局報

下妻シャローム

下妻シャローム
辞(主)山田喬夫
辞(担)佐々木啓
辞(主)吉田傳治
就(代)竹迫 之

東北学院大学

辞(教)雨貝行磨
鹿兒島加治屋町
辞(主)亀井周二
辞(担)尾崎公明
辞(代)田中雅弘
就(代)松隈 協

安岡

就(代)小林克哉
辞(主)西上信義
就(代)早川宗八郎

訂正

四五九一三三三、日本キリスト教社会事業同盟の現状と課題欄、小見出し「社会事業同盟と教会の関係」を、「社会事業同盟と教団の関係」に訂正いたします。

伝道のための祈りと応援

野村忠規

室戸教会に出かけた。伝道集会の応援の為である。松山から高速で南国まで、そこでコーヒーを一杯。また気持ちをを入れ替えて走った。しかし、走っても走っても走っても室戸は遠い。やっと町に入ると、商店街はみなシャッターを下ろしており、ただそこには強い海からの風が通り抜けていた。いやこんな所で牧師は、また教会はどんな気持ちで伝道しておられるのだろうか？ 勝手に暗い気持ち

教区 コラム

で、同じ厳しい状況に立たされながらも、今も生きて働き給う神によって新たな幻を与えられ、新しい時代を生み出す共同体がここに立派に形成されているのである。この事は、室戸の

(四国教区総会議長)



神が備えてくださった道であると信じ

派遣式後にもたれた茶話会では、平塚教会員と高久宣教師の同労者であった二葉幼稚園の教諭が多数参加し、祝辞やエピソードを語った。また、山崎ミネ子氏、高久氏の前任者である柏森幸子前宣教師もアドバイスとともに祝辞を述べた。



子どもたちの熱い祈りに相応しい形で

伝道のともしび

町の灯りとして立つ

新栄教会牧師 川上 憲雄

新栄教会は、東京で初めて創立された教会である。元々は、築地にあった。一八七三年(明治六年)九月に、アメリカ長老教会の宣教師タビッド・タムソン氏の指導の下、築地明石町六番地にてキリスト者男女八名が、東京公会と称して教会を組織した。これが、当教会の始まりである。初期の信徒たちは、伝道に燃えて東京に幾つかの教会を設立している。その後約七〇年間築地にて、福音宣教に励んだ。

第二次世界大戦の末期に、空襲対策から採られた強制疎開政策に

多数点在しているが、今や多くの若者が集う町でもある。祐天寺や自由が丘、中目黒など。また目黒に住みたいという人々も多く、町の人たちの話では、教会の存在が安心感を与え、人々の心の灯りの役割を担っているのだ。

さて、私たちは、教会活動に当たってみ言葉と祈りを何よりも大切にしている。礼拝前に会員が集まり、一五分間祈りの時を持っている。まず、み言葉を輪読し(以前はこの後短いメッセージ)、祈りの課題をあげ、その課題を中心に会員の事や社会問題や世界の諸問題について執り成しの祈りを捧げている。この執り成しの祈り会によって、私たちは整えられて礼拝へと向かう。

礼拝においては、神の恵みに与る上で、悔い改めを重んじて、招詞の後に罪の告白を採り入れている。罪の告白を為して神の前にへりくだり、み言葉による恵みが一層豊かになる。

一年間の主な活動の歩

みを振り返ってみたい。まず、六月末の講壇交換である。その日説教者が変わると、皆さんいつもよりは生き生きとして耳を傾けていたと聞く、ありがたいことである。

よって、築地から目黒の地に疎開してきた。それ以後、目黒中町一丁目の目黒通り沿いの地に六〇年間根を張って、宣教して来た。とにかく長い歴史を持つ教会で、今年九月二〇日で一二三周年を迎えた。

時折、見知らぬ方から「明治の終わりに祖父が洗礼を受けたが、調べてほしい」との依頼が来る。そのような依頼を聞くと、新栄教会の歴史の長さを覚え、神の恵みと守りがあつたればこそ、今があるのの思いを強くする。

目黒の地は、古い神社や仏閣が



2005 年 10 月 9 日、証の会

被災を覚えた 1 日リタジー

関東教区新潟地区信徒大会



被災教会からの分かち合いを聴く

関東教区新潟地区は 3 年に一度、信徒大会を開催している。今年は開催年にあたり、10月10日にこの一年間に起きた新潟地区の水害、中越地震、大雪といった自然災害の被災経験を覚えて「あなたはいじなからもの」というテーマで、6つの被災教会のひとつである小出教会の清心保育園を会場に一日リタジーを行った。

当日は嬉しいことに新潟地区で活動する全ての教会、伝道所からの参加があり、また清心保育園関係者、関東教区からの参加も合わせ約220名の大会となった。

また、当日参加できない方々も共にこの信徒大会に参加できるようにと福引付き500円券を発行していた。当日の昼食、ミニバザーは全てこの金券で購入



清心保育園の子どもたちと歌った「おうちがゆれた」

し、更に福引のお楽しみがあった。金券は目標の400枚を軽く上回る売上があり、大成功だった。

リタジーの中では、水害、地震、大雪被災を経験した三条、長岡、見附、栃尾、小出、十日町の六教会の思いや経験の分かち合い、震災経験から生まれた歌「おうちがゆれた」を清心保育園の子どもたちと歌うこと、腹話術のトーク、劇、被災教会と非被災教会から寄せられた声と祈りによって作られた共同の祈り、参加子どもたちが作った被災教会の再建を象徴する5つの教会のミニチュアを捧げること、また、清心保育園で震災を経験した子どもたち・保育者の手型を壁面にしたミニチュアの除幕式も行われ、テーマに沿った豊かなものとなった。このリタジーの陰日なには新潟地区教会音楽部に導かれた聖歌隊の存在もあった。涙を分かち合い、慰めと勇気を励ましを分かち合い、同じぶどうの木に繋がるキリストのしもべであることを確かめあえた祝福された一日となった。

(荒井眞理報 佐渡教会)



ダニエル・ヘラーさん

主にある真理に生かされて



1973 年コロンビア生まれ、横浜国立大学助教授(経営学部)、大船教会員

米国育ちのダニエルさんが、はじめて教会の礼拝に足を踏み入れたのはアメリカの大学時代である。当時のダニエルさんは部活動、アルバイト、成績トップを目指しての勉強にと我武者羅に生きていた。しかしその反動による不安や疲れで、人間関係も勉強も思うようにいかなかった。その頃、教会を訪れる機会があり、自分がそれまで生きてきたのと全く違う世界、聖書の語る真理に触れた。そして教会でしか見つけられない平安、聖書に示される神の素晴らしさに心惹かれるようになり、独り子イエス・キリストを信じ、一九九五年一〇月、受洗へと至った。それから一年後に日本へ留学、聖ヶ丘教会に導かれた。

そこで日本におけるキリスト者として「神と人とを愛したい、奉仕したい」との志が与えられた。

ダニエルさんは元々ビジネスの実践に興味があり、日本のビジネスや語学の習得が来日の動機だった。しかし日本で学ぶうちに、ビジネスの実践よりも研究の面白さ、奥深さに興味を持つようになった。やがてダニエルさんはキリスト教史を研究している日本人女性、高井由紀さんと出会いが与えられ結婚、家庭も与えられた。現在は毎主日に大船教会での礼拝に励まされ、大学での研究・教育へと進まわされている。

ダニエルさんは次のように語る。大学で私はクリスチャンであることを隠したりしない。大学の研究と教育に全力を尽くし、クリスチャン・サークルとの関わりを持つことで、同僚や学生に証をしたい。そして将来は経営学とキリスト教との関係を、クリスチャンの一人として、しっかりと学術的に解明したい。

またダニエルさん夫妻は、自分たちと同じような「真理探求のクリスチャン研究者たち」のネットワーク作りを願い、有志団体「志学会」の事務局を担当している。真理はあなたたちを自由にする」との主の御言葉がダニエルさんを生かしている。

教団新報に掲載されないニュースについて報告したい。職責上いろいろな関係を持つが、その中から三つを取り上げる。

①九月二日 東京基督教大学・神学校の教授陣と「伝道について」協議をなした。これは同国際キリスト教学科長・倉沢正則教授の申し出により実現したもので、教団からは、私のほか足田國麿氏、関東教区宣教委委員長、米倉美佐男、東支区長が出席、良き交歓と有意義な共有をなした。今後も継続していく予定である。議長は同じ会館にある日本福音同盟(JEA)

開かれた教団

の事務所を訪問、具志堅聖総主事らと出合いの時を持った。

②一〇月一六日 午後四時、在日大韓基督教会関東地方会の伝道集会にて説教をさせていただいた。

③一〇月二六日 第31回法人事務・会計実務研修会が日本キリスト教連合会主催で箱根で持たれた。教団からは僅か二名のみであったが各教派から七〇名が集っていた。特にカトリックの参加が目立った。私は開会礼拝説教のみであったが、愛澤豊重総務幹事が全体をコーディネートし、計良祐時幹事が会計実務を指導し奉仕した。大切な働きである。

(教団総会議長 山北宣久)